

2020年10月11日 主日礼拝

司式：金刺英雄長老

奏楽：中村裕子

*以下、太文字の言葉はみんなで声を合わせます。

《神のみ前に近づく》

前奏

序詞 (ヴォタム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。

アーメン。

讃美歌 224-1 (われらの神 くすしき主よ)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、私たちの命だけでなく、すべてのものを与えてくださっていることを感謝します。『何よりもまず神の国と神の義を求めよ』と命じられながら、献げ切れないで日常を生活している私たちの罪を赦し、憐れんでください。各々の置かれた場所で、あなたへの献身の思いを少しでも表して、生きていけますように。私たちの群れからも新たな献身者を起こしてくださいますように。

癒しと介護を必要としておられる方々、その介護と看病に当たっておられる方々、この社会や制度を維持し守るために働いておられる方々を支えてください。どうか、この世界と日本に、あなたのみことの癒しの道を示してくださいますように。

「むなしいものを見ようとするところから

わたしのまなざしを移してください。

あなたの道に従って

命を得ることが出来ますように。」

(詩編 119:37)

*しばらく黙禱の時をもちます

主よ、私たちの心と体をとらえ、生き返らせ、喜びで満たしてください。魂をあなたの希望の光で包んでください。御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 32 (キリエ) = 座ったままで

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

*司式者がローマ書5章6～9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書

創世記 2章：10～14節 (旧p2～3)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ヨハネの黙示録 9章：12～9：21節

(新p463)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 426-1, 2節 (私たちを生かす)

説教

『黙示録③⑤ — 災いに遭っても』

祝福の祈り

武田真治 牧師

《神への応答》

讃美歌 443-1, 2, 5節 (冠も天の座も)

献金

奉仕者：飯島哲郎 飯田恭子

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 (ともに祈りましょう)

報告

讃美歌 88-1節のみ (心に愛を)

祝禱

後奏

報告と退場 あなたのうちに喜びがあるように J、S、バッハ

受付：飯田三四子 岡本由紀子 礼拝：岩井明彦長老

お茶の会 当分の間休会です。

本日の集会 礼拝前：・求道者会；礼拝後：・壮年会

・婦人会 ・幼稚園理事会・聖歌隊練習

＜先週の説教から＞

『黙示録④ — 底なしの淵から』

ヨエル書 2：1～10 ヨハネ黙示録 8：13～9：11

いよいよ7番目の封印が開かれ、最後の時が始まりました。それが進んで行く行程の一つに7回ラッパが吹かれます。あたかも終末が始まったことを祝うかのように！しかも一回一回ラッパが吹かれる度に地上に災いも起こるのでした。

今日の箇所は5番目のラッパが吹かれる場面で、ラッパの音と共に「底なしの淵に通じる穴」が開かれ、その穴から「大きなかまどから出るような煙が立ち上」ったのでした。旧約聖書では、このような煙が立ち上った後には神様が登場されるのが普通です(シナイ山で十戒が与えられた時も)。なのに「煙の中から」現われたのは、なんと「いなごの群れ」でした。全く意外な存在でした。しかも「さそりのような力が与えられ、額に神の刻印を押されていない人には害(=五か月間の苦しみ)を加え」るために出て来たのです。

この「底なしの淵」は原文では(アビス)と言われています。神様が邪悪な存在を閉じ込めておられた場所でした。それが開かれたのですから、その中から出てくる生き物は当然、忌まわしいものであり、人間をダメにする存在です。ただ、その穴が開かれたのは神様です。わざわざ人間を追い込まれるのです。それは最後の時が来たりつつあることを知らせ、悔い改めに導くためです。それ故、あえて「死にたいと思っても死ぬことができない」痛みを与えられるのです。ここに至っても、なお救える者はいないかと探し求めておられる神様の切なる思いを受け止めたい。